

会 議 録

会議の名称	平成27年度第9回 藤岡地域会議
開催日時	平成28年1月26日午後6時30分開会・午後8時28分閉会
開催場所	藤岡総合支所旧議会棟 会議室
出席者氏名	別紙のとおり
欠席者氏名	別紙のとおり
事務局職員職氏名	別紙のとおり
その他出席者等	別紙のとおり
会議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・組織機構の見直しについて ・藤岡地域保育園送迎バスの運行について ・まちづくり実働組織の在り方について
会議の公開又は 非公開の別	一部非公開 (「組織機構の見直しについて」及び「藤岡地域保育園送迎バスの運行について」は非公開とされた。)
傍聴人の数	無し
その他必要事項	無し
会議の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
◎会長	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>議事に入る前に、「組織機構の見直しについて」及び「藤岡地域保育園送迎バスの運行について」は、会議を非公開とすることについて諮った。</p>
◎委員	— 異議無しの声 —
◎会長	<p>「組織機構の見直しについて」及び「藤岡地域保育園送迎バスの運行について」は、非公開とする旨を述べた。</p> <p>【以下の会議は非公開】</p> <p>(1) 組織機構の見直しについて</p> <p>(2) 藤岡地域保育園送迎バスの運行について</p>
◎会長	<p>非公開の議事の終了により、以降の会議を公開とする旨を述べた。</p> <p>【以下の会議から公開】</p> <p>(3) まちづくり実働組織の在り方について</p>
◎会長	<説明>
◎事務局	事務局に対し、協議事項の説明を求めた。
○事務局	資料「在るべき実働組織の姿の検討結果(12月地域会議分)」について説明

	した。
	<質疑・意見>
◎会長	前回会議の際、2班に分かれて話し合っていたいただいたものをまとめた資料となっている。確認していただき、追加などがあれば意見をいただきたい。
◎A委員	資料3ページの防災防犯のところで、自主防災組織による防災出前講座とあるが、出前講座の後に開催という語句を補っていただきたい。
◎B委員	資料上から2番目に記載されている環境の項目のところに、「渡良瀬遊水地などへの来訪者の目線を意識」と記載があるが、昨年、渡良瀬遊水地に天皇皇后両陛下がお越しになったのは、公にすることはできない私的な訪問だったのか。栃木市もそういうことをPRに利用したほうが良いのではないのか。パンフレットなどに載せることはできないのか。
○事務局	天皇皇后陛下の行幸啓について、どのような資料を使えるのか即答はできないが、予め確認を受けてからになると思う。
◎C委員	地域活性化のところで、渡良瀬遊水地の利活用が挙げられている。市では、遊水地課ができて、ハーツ姫とわたらせナイツの着ぐるみ等でPRしているが、そのような動きとタイアップした方が良い。また、高齢者の集いの場が少ないので、公民館や渡良瀬の里等に送迎し、高齢者が集うことが出来るような環境を整えられたら良い。防災防犯の関係については、昨年未曾有の大雨があったが、なかなか情報が入ってこないの、行政側から最新の状況を伝達できるようなシステムを構築してもらいたい。
◎事務局	渡良瀬遊水地について、今年度から遊水地課が組織され遊水地に関する業務を行っているが、地域まちづくり課とも連携しながら進めることとなっている。地域会議とこれから出来るであろう実働組織も含め、すべてが連携し合って進めていくものと考えている。2点目の高齢者の集いの場所づくりという意見だが、2つのグループでまとめた中の高齢福祉分野のふれあい交流の場づくりと関連するが、地域の公民館や渡良瀬の里がこういう場になるとして、ここで心配しているのはそこにたどり着くまでの交通手段ということで、ふれあいバスのことも含めて議論し、膨らませていければと考える。3点目の防災の件は、昨年9月の豪雨災害について、市としての反省点を含め検証を進めているため、検証結果をふまえ、今後地域の防災をどうするかということを検討すべきと考える。
◎会長	いろいろ意見があると思うが、実働組織と協力して活動していくことになる我々地域会議の方向性については、今後も引き続き皆さんと検討していくこととしたい。
◎会長	事務局に対し、再度協議事項の説明を求めた。
	<説明>
○事務局	資料「まちづくり実働組織設立に向けた意見交換会開催要領案」について説明した。
	<質疑・意見>
◎会長	委員に対し、意見を求めた。

◎D委員	アンケートについては、質問内容を工夫し、次に繋がっていくようなアンケートにすべきと考える。
◎会長	アンケートの内容については、事務局とも協議したが、意見交換会の場で実働組織への参加希望の有無まで回答していただくのは困難だと考えている。
◎E委員	団体の方の場合、意見交換会の場で即答は難しいので、意見交換会后、ある程度期間をおき、参加を促すようアプローチもしながら参加の意思を確認していく必要がある。内容についても、参加する、しないを確認するだけでなく、ご意見をいただきながら少しでも前に進んでいくようにしてもらいたい。
◎D委員	理解はしたが、そのような方法はいかがなものか。どんどん進んでいかないと、形ばかりで何度アンケートをやっても同じではないか。
◎会長	実働組織は、最終的には何としても設立すべきものとして取り組んでいく。
◎E委員	団体の場合、組織内での決議が必要となるが、個人で参加される方には、その場で参加の意思決定をされる方もいるだろうから、そのような方のために参加の意思を問う回答欄も設けると良いだろう。
◎B委員	確認だが、実働組織への参加強制はできないということによろしいか。
◎会長	強制はできないが、実働組織として事業を実施するための予算の問題がでてくる。あまり強く言うと、参加を尻込みすることになりかねないため、賛同者により設立準備会を立ち上げ、その中で具体的に検討してもらいたいと考える。
◎E委員	今回の意見交換会の説明の中で、自主財源は不可欠だという事を言わざるをえない。その上で手を挙げてくれた方と手を組んで進めるしかないだろう。
◎F委員	意見交換会では、これまで地域会議が活動してきた内容にも触れるのか。また、前回ワークショップで実働組織の在るべき姿を検討したが、そのような資料も出すことになるのか。
◎会長	地域会議の立場、役割などについては説明を行うことになる。一方で、実働組織の在り方に関する地域会議の検討結果を資料としてどう提供するかは難しい。参加者から地域会議の考えについて質問された場合、その資料を基に説明する考えでいる。
◎E委員	地域の中でこれだけの課題があると地域会議が考えているということ、地域会議の視点を参加者にお話しするべきである。だから一緒に皆さんやりましょうと言っても良いと思う。
◎G委員	藤岡町の団体一覧には、ボランティア活動団体なども挙がっているが、先日ワークショップという形で地域会議が話し合った結果と比較すると、また新たに同じ活動をするようになるのかと躊躇する人も出てくるのではないか。その辺の整合性をどうすべきか、はっきりさせる必要があるだろう。
◎会長	つまり、各々の団体の活動内容とこれからの実働組織の活動内容のバランスということだがいかがか。
◎D委員	地域会議が検討した在るべき実働組織の姿というものを、意見交換会に集まった方に強制するのは好ましくないと考える。確認だが、地域会議の方向性に添った団体に集まってもらい新しい実働組織という会をつくることになるのか。それ

<p>◎E委員</p>	<p>とも、あるひとつの団体が、自ら実働組織を引き受けたいと申し出た場合、その団体に依頼することもできるのか。</p> <p>実働組織という形、組織は必要だと考える。実働組織という土俵に皆さん上がりませんかと呼びかけるが、全員右向け右と強制することはできないため、色々な事業を実施していく中で、実働組織に参画する全構成団体が各事業に一律に参加するのではなく、事業の趣旨に賛同し、参加できる団体などで実施すれば良いのではないかと。</p>
<p>◎会長</p>	<p>設立してからも、組織の中で、イベント毎に得意分野とする団体に幹事となってもらえるなど、事業により柔軟に対応することも良いと考える。</p>
<p>◎H委員</p>	<p>意見交換会は、実働組織ができるまでのひとつの段階である。内容は、制度説明、先進地事例の紹介、出席者の意見交換の内容であり、今の段階ではどういう意見が出されるか不明である。まずは、意見交換会を開いて情報収集を行い、設立準備会などに繋げていくということが良いのではないかと。</p>
<p>◎会長</p>	<p>意見があったとおり、いかに意見交換会を成功させるか、そして設立準備会に生かしていけるかである。</p>
<p>○事務局</p>	<p>先ほど、委員から各種団体が実働組織に参加する意義の整理をすべきではないかという貴重なご意見があった。資料には、参加する意義として、地域における人材等のネットワーク化やスケールメリットということを挙げたが、この実働組織に参加する意義という部分について、再度地域会議として検討する機会を持つべきか否か、地域会議として決定していただきたい。</p>
<p>◎G委員</p>	<p>前回地域会議で話し合いをした、実働組織が担うべき活動内容の多くは、既存の団体による活動と重複してしまうということで、先ほど発言したところだ。</p>
<p>◎会長</p>	<p>今回の制度では、市の補助が出るため、既に取り組んでいる事業をもっと拡大できないかとか、既存の活動を後押しするような方向性でも良いのかなと個人的には考えている。</p>
<p>◎E委員</p>	<p>確かに、既存の各種団体は、地域会議が挙げた5分野に少なからず関わるような活動をしていると思う。しかし、実働組織に参加することで、個々の団体が持つノウハウを持ち寄り、市の補助金を受け、担う人間の数も増やすことができる。だから、一緒に活動していきませんかという提案すれば良いのではないかと。</p>
<p>◎H委員</p>	<p>前回の会議でまとめた在るべき姿の取り扱いについては、誘導とにならないよう、最初から資料として出さず、出席者の出方によって示す方が良いのではと考える。出席者から地域会議の考えを問われてはじめて、我々の統一見解として出せば良いのではと思うがいかがか。</p>
<p>◎D委員</p>	<p>G委員がおっしゃっていたことは、今までやっていた事業に新たに補助金がもらえる可能生があるということで、プラスに捉えることができるかと考える。事例に挙げられた皆川地区は、この制度があるから活動を始めた訳ではなく、既に活動していたところに行政によりこのような制度がつけられた。例えば、どこかの団体がすべて自主財源によりクリーン作戦を行っている場合、それについて実働組織をつくって取り組むことで、補助金がもらえるような形となる。</p>

◎会長	意見交換会の具体的な内容についてよろしいか。日時は、2月27日（土）午前10時からで委員全員に参加をお願いしたい。では、意見交換会については、以上の内容でよろしいか。
◎委員	— 異議無しの声 —
◎会長	<p>(4) その他 委員に対し、その他の協議事項の有無について確認した。 意見等が無いため、議事の終了により、以降は事務局が進行する旨を述べた。</p>
	<p>4 その他 (事務局から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域予算提案制度事業計画の検討（藤岡地域の身近な課題の見つけ方）」について ・委員報酬の請求書の取り扱いについて ・渡良瀬遊水地講演会『自然と向き合う』の開催について <p>以上3点について、連絡を行った。</p>
○事務局	次回会議は、2月23日（火）午後6時30分から開催することを連絡した。
○事務局	<p>5 閉会 午後8時28分をもって第9回藤岡地域会議を閉会する旨を宣言した。</p>

別紙 出席者及び事務局職員

出席者（委員）

会 長	小曾根 慎 一	副会長	田 中 廣
委 員	飯 塚 俊	委 員	井 岡 治
委 員	池 田 昇	委 員	石 川 悦 史
委 員	小笠原 義 仁	委 員	田 熊 豊 和
委 員	田 村 孝 子	委 員	毛 塚 麻由美
委 員	酒 井 一 則	委 員	福 地 智 子
委 員	山土家 光 幸	委 員	萩 原 繁
委 員	町 田 佳 子		

欠席者（委員）

委 員 齋 藤 久 美

出席者（事務局職員）

藤岡総合支所

（藤岡地域まちづくりセンター）

飯 塚 勝（地域まちづくり課長）	山 市 進（同 主幹）
亀 田 ミユキ（同 主査）	五十畑 文 寛（同 主査）

出席者（担当課）

総務部

川 津 浩 章（総務課長）	江 面 健太郎（同課長補佐）
---------------	----------------

保健福祉部

臼 井 春 江（副部長）	中 野 達 博（保育課長）
横 長 匡 史（同 係長）	三 好 怜 子（同 主査）